

区分・種別	県指定有形文化財		
名 称	おおがたきだい 大型器台／釜ノ口遺跡出土 1 箇		
所 在 地	松山市南斎院町（松山市考古館）		
所 有 者	松山市	管 理 団 体	
指定年月日	平成29年3月28日		
解 説	大型器台は、西部瀬戸内の弥生時代後期から終末期において、在来の器台形土器の胴部を大きく伸長させ、口縁部や裾部を拡大・装飾して、儀礼用具へと変化を遂げた土器である。 釜ノ口遺跡4次調査地（松山市小坂）で出土した器台は、長い円筒状の胴部に多条沈線文と円孔を5段施す。直線的に大きく開いた口縁部は端部が下垂し、端面を4条の沈線文と円形浮文で飾る。寸法は、器高64.5cm、口径51.2cmを測る。本例は、弥生時代後期後葉に盛行した大型器台の典型のひとつである。		

